

オーケストラの魅力に迫る

チャイコフスキー&富山の新作交響詩シリーズ

【富山・高岡公演】 オール チャイコフスキー プログラム

指揮：**西本 智実** **富山初公演**

東京フィルハーモニー交響楽団



ピアノ
稲生 亜希子
(滑川市出身) **8/6**



ヴァイオリン
山下 洋一
(富山市出身) **8/8**

◎2009年 **8月6日** [木] 午後7時開演 (開場30分前)

富山県民会館 大ホール

歌劇「エフゲニー・オネーギン」op.24 より<ボロネーズ>
ピアノ協奏曲第1番 変ロ短調 op.23
交響曲第5番 ホ短調 op.64

◎2009年 **8月8日** [土] 午後4時開演 (開場30分前)

富山県高岡文化ホール 大ホール

歌劇「エフゲニー・オネーギン」op.24 より<ボロネーズ>
ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 op.35
交響曲第4番 ヘ短調 op.36

【入場料 各公演とも】 一般 4,500円 高校生以下 2,000円
全席自由 (当日 各500円高)



©宅間國博



©満田聡

【魚津公演】

指揮：**渡邊 一正**

東京フィルハーモニー交響楽団

◎2009年 **8月9日** [日] 午後3時30分開演 (開場30分前)

新川文化ホール 大ホール

チャイコフスキー：《フィレンツェの思い出》ニ短調 op.70

谷川 賢作 (作・編曲) 覚 和歌子 (作詩)

財団法人富山県文化振興財団 委嘱作品

「**少年少女のための交響詩 ～めざめる羽 はばたく四季**」

～うたと弦楽オーケストラ、ピアノ、伝統楽器による～

合 唱：郷土の音楽家合唱団 合唱指導：宮丸 勝

ピアノ：西能 晶子 久乗編鐘：福島 久美子 胡弓：石川 与志子

チャイコフスキー：弦楽セレナード ハ長調 op.48

【入場料】 一般 3,500円 高校生以下 1,500円 親子券 4,000円
全席自由 (当日 各500円高)

【プレイガイド】

アーツ・ナビ URL <http://www.arts-navi.com/> (富山県民会館・富山県教育文化会館・富山県高岡文化ホール・新川文化ホール)、
北日本新聞社1階プレイガイド、大和富山・高岡店、ウイング・ウイング高岡3階カウンター、魚津サンプラザ、黒部メルシー

※曲目・曲順は予定です。変更になる場合がありますのでご了承ください。 ※未就学児のご入場はご遠慮願います。



主催 財団法人 富山県文化振興財団、文化庁

共催 富山県、魚津市、魚津市教育委員会、富山県合唱連盟、北日本新聞社、富山テレビ放送、FMとやま

後援 社団法人 富山県芸術文化協会

協力 富山県民会館文化友の会、富山県高岡文化ホール音楽友の会、新川文化ホール振興協議会、ミラージュホール・クルー、富山県婦人会、世界文化遺産をめざす高岡市民の会、高岡開町400年記念イベント実行委員会

助成 文化庁

チケットのご購入・お問い合わせ

富山県民会館 (富山市新総曲輪4-18)
TEL 076-432-3115 FAX 076-432-2024
e-mail hall@kenminkaikan.com

富山県高岡文化ホール (高岡市中川町13-1)
TEL 0766-25-4141 FAX 0766-25-4332
e-mail takabun@p1.coralnet.or.jp

新川文化ホール (魚津市宮津110)
TEL 0765-23-1123 FAX 0765-23-0534
e-mail i-mirage@nice-tv.jp

〔富山・高岡公演〕



©老問園博

西本 智実 Tomomi Nishimoto (指揮)

大阪音楽大学作曲科卒業。ロシア国立サンクトペテルブルク音楽院オペラ・シンフォニー指揮科に留学。文化庁芸術インターンシップ奨学金研修生を経て、1998年京都市交響楽団を指揮し、日本デビュー。後、受賞多数。2002年ロシア・ボリショイ交響楽団ミレニウムの首席指揮者に就任し(02~04年)、04年チャイコフスキー記念財団・ロシア交響楽団 芸術監督・首席指揮者に就任(04~07年)。また、04年ムソルグスキー記念 サンクトペテルブルク国立アカデミックオペラ・バレエ劇場(旧レニングラード国立歌劇場)首席客演指揮者に就任(04~06年)。日本国内の主要オーケストラを指揮するほか、ブラハ国立歌劇場来日公演、リンツでのブルックナー管弦楽団、モンテカルロ・フィルハーモニー管弦楽団、モスクワ市立ロシアフィル、リトアニア室内管弦楽団、ハンガリー国立歌劇場などで大成功をおさめ、現在ヨーロッパへ活躍の場を広げている。2007年よりダボス会議を主催する世界経済フォーラムのヤンググローバルリーダーを務めている。

〔魚津公演〕



渡邊 一正 Kazumasa Watanabe (指揮)

1996年から東京フィルハーモニー交響楽団指揮者。1995~02年まで広島交響楽団正指揮者を歴任。NHK交響楽団の定期演奏会を始め、日本国内のオーケストラとは読売日響、日本フィルを始め主要なオーケストラと定期的に客演している。オペラ、バレエでの活躍も目覚しく、新国立劇場で歌劇「友人フリッツ」、同劇場バレエ団では「白鳥の湖」「くるみ割り人形」「ドン・キホーテ」などを指揮。2006年には「白鳥の湖」の新演出の指揮も行い、大成功を収めた。海外での公演ではサンクトペテルブルク交響楽団の定期演奏会に客演するなど、確実にキャリアを積んでいる。ピアニストとしても8歳の時に東京交響楽団、東京フィルと協演。87年~89年まで渡辺ハンス・ライグラフ教授に師事。その後、東京フィル定期、広島交響楽団定期などのオーケストラと弾き振りを含むプログラを行なうなど、ピアニストとしての才能も評価されている。

東京フィルハーモニー交響楽団 Tokyo Philharmonic Orchestra

1911年創立の日本で最も古い伝統を誇るオーケストラ。2001年4月に新日本交響楽団と合併し、日本で初めてシンフォニーオーケストラと劇場オーケストラの両機能を併せ持つ160余名のオーケストラとなると同時に、スペシャル・アーティストック・アドヴァイザーにチョン・ミョンフンが就任。各方面の多大な注目、期待を集め、より一層の飛躍を期している。Bunkamuraオーチャードホール、東京オペラシティコンサートホール、サントリーホールでの定期演奏会を中心とする自主公演、レギュラーオーケストラである新国立劇場を中心としたオペラ・バレエ演奏、NHKにおける「ニューイヤークンサート」「名曲アルバム」をはじめ、他の放送演奏など、高水準の演奏活動とさまざまな教育的活動を展開している。海外公演も積極的に行い、最近では2005年11月にチョン・ミョンフン指揮で実施した「日中韓未来へのフレンジシップツアー」において、中国最大のイベント「上海国際芸術祭」に招聘され、韓国では「日韓友情年」の中心行事としてソウルをはじめ5都市で公演。各地で絶賛を博し「世界のファーストクラス・オーケストラ」を強く印象づけた。1989年からBunkamuraオーチャードホールとフランチャイズ契約を結んでいる。また東京都文京区、千葉県千葉市、埼玉県和光市、長野県軽井沢町と事業提携を結び、各地域との教育的、創造的な文化交流を行っている。公式ウェブサイト <http://www.tpo.or.jp>



稲生 亜希子 Akiko Inao (ピアノ)

滑川市出身。4歳よりピアノを始める。1990年第2回中部ショパン学生ピアノコンクール小学生部門銅賞。2002年桐朋学園大学音楽学部演奏学科ピアノ専攻卒業。富山県新人演奏会にて北日本新聞音楽奨励賞受賞。2003年第21回ソレイユ新人オーディション音楽現代新人賞受賞。東京文化会館小ホールにて入賞者発表コンサート出演。ドナウンダー国際夏期アカデミーに招待を受ける。第4回かずさアカデミア音楽コンクール入選。2004年渡仏。2005年メリニャック(フランス)国際ピアノコンクール2位受賞。2006年パリ国立地方音楽院最高課程を審査員満場一致の首席で卒業。現在、パリ国立地方音楽院室内楽科、伴奏科に籍を置きながら、ピアノソロ、ピアノ伴奏、室内楽など多方面において活躍中。これまでにピアノを林美穂子、岡野宏映、川島伸達、練木繁夫、オリヴィエ ガルドン、伴奏法をクロードコレ、室内楽をポール・メイユ、エリックルサージュの各氏に師事。



山下 洋一 Yoichi Yamashita (ヴァイオリン)

富山市出身。東京芸術大学付属高校、東京芸術大学を経てドイツ、フライブルク音大大学院を修了。これまでに、故大沢和夫、故岩崎洋三、海野義雄、堀正文、浦川宣也、ヴォルフガング・マルシュナーの各氏に師事。第52回日本音楽コンクール・バイオリン部門に入選。1990年ウルム市立歌劇場オーケストラ第1コンサートマスターに就任。1992年よりマゲデブルグ・フィルハーモニー・オーケストラ第1コンサートマスター、並びに同オーケストラの首席奏者で編成するマゲデブルグ室内オーケストラの指揮者に就任。現在に至る。1998年ザクセン・アンハルト州劇場振興財団から、劇場功労賞を受賞。これまでにソリストとして、ウルム市立歌劇場オーケストラ、マゲデブルグ・フィルハーモニー、マックス・ブルッフ・フィルハーモニー、ツヴィッカウ・シンフォニーオーケストラ、富山室内合奏団、東京都交響楽団、N響室内合奏団と協演。モーツァルト、ベートーヴェン、ブラームス、メンデルスゾーン、ブルッフ、チャイコフスキー、ドヴォルザーク、シベリウス、バルトーク、プロコフィエフ、ストラヴィンスキー、ショスタコービッチ、コルンゴールド、アルバン・ベルグ等の協奏曲を演奏。またザクセン・アンハルト弦楽四重奏団のリーダーとして、ドイツ、イタリア、スペイン、オーストリア、ノルウェー、ヨルダンの各都市で演奏。ゲヴァントハウス弦楽四重奏団とメンデルスゾーンの八重奏曲を共演。現在ベートーヴェンの弦楽四重奏全曲公演が進行中。

財団法人富山県文化振興財団 委嘱作品 「少年少女のための交響詩 ～めざめる羽 はばたく四季」

第一楽章 夏～かがやく羽 第二楽章 秋～誰かのために 第三楽章 冬～伝言 第四楽章 春～愛する予感



©本多見子

覚 和歌子 Wakako Kaku (作詩)

早稲田大学第一文学部卒業。平原綾香、smap、クミコなどの作詞で、多くの作品をCD化。1992年以後、自作詩の朗読ステージを国内外で精力的に展開。『朗読するための物語詩』という独自の分野を開拓し、評価を受ける。2001年『千と千尋の神隠し』主題歌『いつも何度でも』の作詞でレコード大賞金賞。著作に、第一物語詩作品集『ゼロになるからだ』(徳間書店)、最新詩集『海のような大人になる』(理論社)、エッセイなど多数。2004年ソノアルバム『青空1号』をソニーよりリリース。2008年3月、企画・補作・監修した「星つむぎの歌」(平原綾香・歌)が土井宇宙飛行士のウェイクアップコールとして大気圏外で使用される。同年5月公開の写真映画『ヤーチヤカ』では、原作・脚本・監督(共同監督・谷川俊太郎)をつとめる。また2009年2月には、舞台「届かなかったラブレター」の構成・演出を担当。詩人としての創作活動に軸足を置きつつ、多方面に渡る活動を展開している。公式ファンサイト 「風雲うたよみギムナジウム」 <http://kaku-wakako.com/>



©RURIKO AOYAMA

谷川 賢作 Kensaku Tanikawa (作・編曲)

1960年東京生まれ。ジャズピアノを佐藤允彦に師事。演奏家として、現代詩をうたうバンド「DIVA」ハーモニカ奏者続木力とのユニット「バリエーション」、また父である詩人の谷川俊太郎と朗読と音楽のコンサートを全国各地で開催。80年代半ばより作・編曲の仕事をはじめ、映画「四十七人の刺客」「竜馬の妻とその夫と愛人」NHK「その時歴史が動いた」テーマ曲等。88、95、97年に日本アカデミー賞優秀音楽賞受賞。近年では、06年びわ湖ホール制作「雷の落ちない村」の音楽監督(09年再演)ピアニスト館野泉に組曲「スケッチ・オブ・ジャズ」を献呈。画家、山本容子の絵とエッセイで綴る「Jazzing」の音楽プロデュース。兵庫県立芸術文化センター制作の音楽劇「赤毛のアン」09年横浜開港150周年記念事業「DO-RA-MA YOKOHAMA150」の音楽監督。富山県文化振興財団委嘱作品「少年少女のための交響詩 ～めざめる羽 はばたく四季」(作詩/覚和歌子)初演。映画音楽の最新作は「ソロコンテスト」(監督/下條岳) 谷川賢作オフィシャルサイト <http://tanikawakensaku.com/>